

2020 年 6 月 5 日

主要グローバル株式運用戦略で業界初^{*1} ESG を銘柄評価に組み込んだ新ファンドを設定

「グローバル ESG ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし）（愛称：未来の世界（ESG））」

アセットマネジメントOne株式会社（東京都千代田区、取締役社長 菅野暁、以下、「AM-One」）は、「リターンの追求」において運用プロセスに「ESG（E：環境、S：社会、G：ガバナンス）の課題に取り組む企業への評価」の視点を加えた「グローバル ESG ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし）（愛称：未来の世界（ESG））」を提供します。国内で提供されているグローバル株式運用戦略の主要な公募投信において、既存運用戦略に新たにESG評価を組み入れた新戦略を提供するのは当ファンドが初めてです。この「未来の世界（ESG）」は、6月22日よりみずほ証券ならびにみずほ銀行にて募集を行い、7月20日に設定、運用を開始する予定です。なお、みずほ信託銀行は7月20日より取扱いを開始する予定です。

この「未来の世界（ESG）」は、世界の企業から「ハイクオリティ成長企業^{*2}」を発掘、株価が割安な水準と判断される銘柄を厳選して運用を行う「未来の世界シリーズ」において、重要なポイントの一つにESGを掲げるファンドです。「ESG」を投資テーマとしてとらえるのではなく、積極的なESG課題への取り組みとその課題解決を通じて、企業の競争優位性が維持され、成長が期待される銘柄に注目します。また、「未来の世界シリーズ」の運用を実質的に行うモルガンスタンレー・インベストメント・マネジメントの株式運用チームが担当する「グローバル・オポチュニティ株式運用戦略」にて運用する米国籍ファンドでは10年間の運用成績はトップクラスを誇ります。^{*3}

「未来の世界シリーズ」は、2016年9月末から運用をスタートし、これまでに7本のファンドが提供されています。純資産総額の合計は9,324億円^{*4}で、ファンド評価会社等より数々の賞を受賞しています。

AM-One は、豊かな将来の実現を支援する投資商品の提供などを通じて、お客さまにいちばん信頼される資産運用会社を目指してまいります。

*1 主要とは国内公募株式ファンド（内株、外株、内外株：インデックス、特殊型除く）のうち 2020 年 4 月末時点の純資産総額が 2,000 億円以上のファンドを指します。出所：Fundmark/DL

*2 ハイクオリティ成長企業とは、投資アイデアの分析・評価や、個別企業の競争優位性、成長力の評価に基づき選定した質の高いと考えられる企業のことを指します。

*3 モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントが「グローバル・オポチュニティ株式運用戦略」で運用する米国籍ファンドの実績。（世界大型株式分類、2020 年 3 月末時点）

*4 2020 年 5 月末時点

以上

<「未来の世界」シリーズ ファンド一覧>

- ・グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド（限定為替ヘッジ） 愛称：未来の世界
 - ・グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし） 愛称：未来の世界
 - ・グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド（年2回決算型）（限定為替ヘッジ）
愛称：未来の世界（年2回決算型）
 - ・グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド（年2回決算型）（為替ヘッジなし）
愛称：未来の世界（年2回決算型）
 - ・先進国ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジあり） 愛称：未来の世界（先進国）
 - ・先進国ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし） 愛称：未来の世界（先進国）
 - ・新興国ハイクオリティ成長株式ファンド 愛称：未来の世界（新興国）
 - ・グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし） 愛称：未来の世界（ESG）
- 追加型投信／内外／株式

【ファンドの費用】

【ご購入時】購入時手数料：購入価額に **3.3%（税抜 3.0%）** を上限として、販売会社が定める手数料率を乗じて得た額。

【ご換金時】信託財産留保額：換金申込受付日の翌営業日の基準価額に **0.3%** の率を乗じて得た額。換金時手数料：**あり** ません。

【スイッチング手数料（未来の世界（新興国）と未来の世界（ESG）は除く）】スイッチング時の購入価額に **3.3%（税抜 3.0%）** を上限として、販売会社が定める手数料率を乗じて得た額 ※スイッチングの際には、換金時と同様の費用、税金がかかります。

【保有期間中（信託財産から間接的にご負担いただきます）】運用管理費用（信託報酬）：ファンドの日々の純資産総額に対して、未来の世界（ESG）は**年率 1.848%（税抜 1.68%）**、その他各ファンドは**年率 1.87%（税抜 1.70%）**。その他の費用・手数料：組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。（その他の費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。）

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

【ファンドの投資リスク】

基準価額の変動要因 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。詳細については投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。

■株価変動リスク ■業種および個別銘柄選択リスク* ■為替変動リスク ■カントリーリスク ■信用リスク ■流動性リスク

*「未来の世界」および「未来の世界（年2回決算型）」のみのリスクです。

各ファンドは、値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、株式市場の変動、業種および個別銘柄の選択による株式市場全体の動向との乖離、為替相場の変動、投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等（新興国の経済状況は、先進国と比較して一般的に脆弱である可能性があり、これらの変化が株式市場、為替相場におよぼす影響はより大きくなると予想されます。）、組入価証券の発行者にかかる信用状況の変化、市場に十分な需要や供給がないため取引を行えないまたは取引が不可能となること等により、組み入れた有価証券等の価格が下落し、基準価額が下落する要因となります（為替ヘッジ取引を行うファンドでは為替リスクの低減をめざしますが、為替リスクを完全に排除できるものではありません。）。これらの運用による損益はすべて投資者のみならずみなさまに帰属します。したがって、投資者のみならずみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

【ご注意事項】

・当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。・当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。・お申込みに際しては、販売会社からお渡す投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。・ご自身でご判断ください。・当資料における内容は作成時点（2020年6月5日）のものであり、今後予告なく変更される場合があります。・投資信託は1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。2. 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【アセットマネジメントOneについて】

アセットマネジメントOne株式会社は、DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社の資産運用部門、みずほ投信投資顧問株式会社及び新光投信株式会社（以下、総称して「統合4社」）が統合し、2016年10月1日に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託事業」の双方の事業領域における運用資産残高は約49兆円と国内有数の規模を誇ります。

統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、資産運用のプロフェッショナルとして、グローバル運用リサーチ体制に支えられた伝統的資産のアクティブ運用や金融工学を駆使した最先端の運用戦略等、個人投資家や機関投資家の多様な運用ニーズに対し、最高水準のソリューションの提供をめざします。

HP：<http://www.am-one.co.jp/> ※運用資産残高は2020年3月末時点。

商号等／アセットマネジメントOne株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号

加入協会／一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会